

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	京都大学	整理番号	K02
プログラム名称	デザイン学大学院連携プログラム		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラムコーディネーター	石田 亨

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、異分野の専門家と協働し社会システムやアーキテクチャをデザインできる博士人材を養成する学位プログラムが構築されたことは評価できる。具体的には、学内の異領域の教員に加え企業や海外研究者による指導体制が確立され、また、情報学研究科においては「博士（総合学術）」の学位、全てのプログラム参画研究科において学位記に「デザイン学大学院連携プログラム修了」を付記する付記型の学位を新設し、大学全体で学位の質保証に取り組んでいる。デザイン学という分野を横断する学問領域を意欲的に立ち上げ、参画研究科におけるデザイン学関連科目の創設、教科書の作成の取組等は優れたものと評価できる。デザイン学の体系化に向けた今後の発展が期待される。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、異なる専門領域や産業界との交流により視野の広がりや視点の高まりが見られ、多彩でバランスの良いキャリアパスが生み出されていることは評価できる。履修生個人の質保証に関する指標（ルーブリック指標）とプログラム全体の質保証に関する指標（デザインイノベーションインデックス）による評価が実施され、学生の成長が確認できる。特に、エンゲージメント及びパーソナリティの能力に関して学生の自信が芽生えており、博士課程教育リーディングプログラムの趣旨を体現できていると評価できる。修了者の社会での活躍状況を長期にわたり追跡調査する仕組みが検討されており、修了者がグローバルリーダーとして成長していく姿が浮き彫りにされることが期待される。

事業の定着・発展については、「大学院横断教育プログラム推進センター」が新設され、本プログラムを、新センター内に「デザイン学リーディング大学院」と位置付け、プログラムの精神を引き継いだ教育が計画されていることは評価できる。大学の第3期中期目標・中期計画の中に、プログラムの趣旨を踏まえた人材育成目標と措置が明記されており、大学の展開計画における重要課題として取組む姿勢がみられる。全学及び参画研究科、さらに産業界が主導するデザインイノベーションコンソーシアムによる人的・経済的支援により、産学官での人材育成が継続される見通しであり更なる発展が期待される。